



翔

2012
December
No.219

百万石蝶談会

ツマグロヒョウモンの飼育体験

日吉宏朗・濱村 翼

石川県金沢市の小將町中学校では、今年も校庭のスミレにツマグロヒョウモンが来ていて観察できました。昨年は、繁茂していたスミレにたくさんの幼虫が見つかりましたが、今年は花壇整備のために、スミレがほとんど根こそぎ引き抜かれていました。それでも、幼虫はわずかに残ったスミレに数匹ついていました。

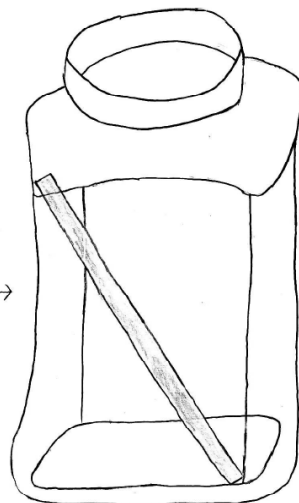
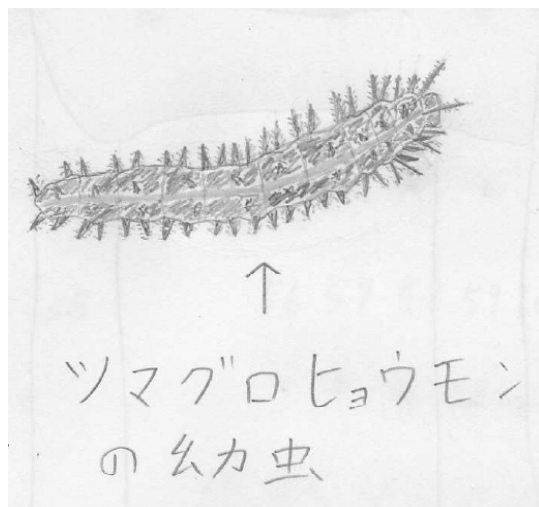
昨年、ツマグロヒョウモンについて生徒に紹介し、幼虫に興味を持った生徒がいたので持ち帰らせて飼育させました。今年は、その生徒が、自分から飼育してみるといって進んで容器に入れて持ち帰ったのです。しばらくして、観察ノートを見せてくれました。

■観察ノート（2年 濱村 翼）

2012年9月21日 今日、学校の理科の時、花壇のスミレの所にツマグロヒョウモンの幼虫がいました。さわって観察してケースに入れました。家に帰って来て僕は、別のケースに入れ替えました。幼虫の体長は33mm、突起を除いた幅は5mmでした。去年も育てた経験があるので、僕は成虫になるまで見守りたいと思います。

2012年9月22日 今日は最初、ツマグロヒョウモンの幼虫に動きはありませんでしたが、しばらくするとスミレの葉をもすごい速さで食べていました。わり箸の上にじっとしている姿も見られましたが、次に見る時、下に降りていました。いまの所、変化は見られませんが、今後どうなるか楽しみにしています。

2012年9月23日 今日は、特に変わった様子は無く、動いたり動かなかつたり繰り返しでした。ケースを登っている姿も見られました。スミレの葉を食べている時もありましたが、どんどんスミレの葉



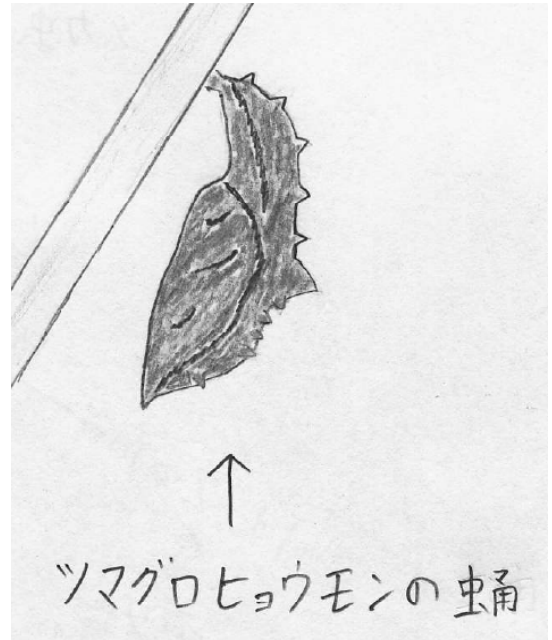
が減って来たので、明日、学校へ予備のスマレの葉を取りに行こうと思います。幼虫は、今のところ元気です。

2012年9月24日 今日朝、学校で予備のスマレの葉を取って来ました。家に帰り、取ったスマレの葉を入れると、幼虫はもの凄い速さで食べてしまいました。食べ終わると、わり箸を登り、途中でじっと動かなくなりました。その後、変化は見られず、ずっとそのままでした。

2012年9月25日 朝、幼虫はわり箸の上でじっとしていましたが、しばらくすると下に降りて、スマレの葉を食べていました。夕方、学校で新たにスマレの葉を入れると食べていました。夜、幼虫の体長を測ると27mmと最初より6mm縮んでいました。その後、わり箸の上でじっと動かなくなりましたが、しばらくすると動き出しました。

2012年9月26日 朝、幼虫に変化がありました。ぶら下がった状態で、じっと動かなくなりました。夕方、何と幼虫が蛹になりました。最初、薄い茶色で、上の部分はピンク色で少し動いていましたが、夜になると濃い茶色になり、10個の白い斑点も現れ、完全に動かなくなりました。

2012年10月5日 朝、蛹に変化がありました。突起の部分を太陽の光に当てると、透明になっていました。羽の部分は、時間が経つと、茶色、黒色、オレンジ色に変わっていました。そして、脱皮が始まり午前8時47分ついに脱皮が完了し、新しい命が誕生しました。短い羽は、だんだんと伸びて、伸び終わると歩き回っていました。夜には、ケースの中を飛び回っていました。



2012年10月6日 昨日、ツマグロヒョウモンは、無事に脱皮羽化しました。そして、今日別れの日がやって来ました。ツマグロヒョウモンは、ケースの中で飛び回っていました。玄関に行き、しばらく待つと、ツマグロヒョウモンは、ケースの入り口へ歩き出し、午前8時25分、ついに旅立ちました。16日間と言う短い間でしたけど、ツマグロヒョウモンは、いろいろな変化を見せて、みんなを驚かせていました。

幼虫飼育の始まりが、もう終齢幼虫だったので、もっと早くに卵や幼虫を見つけて記録させることができるとよかったです。本校は街中にありますが、アゲハ類もよく見かけます。食草になる木を植えて、生徒たちに幼虫の観察をさせてみたいと考えてます。

《ひよし あつろう 〒920-1302 金沢市末町9-1-5》

《はまむら つばさ 〒920-0357 金沢市佐奇森町ル130-2》

石川県庁舎周辺に於けるクマゼミ発生の可能性

松 井 正 人

石川県金沢市鞍月の石川県庁舎周辺でクマゼミの鳴き声が、2006年から2012年にかけて毎年記録され、2007年には1♂が採集されているので報告する。鳴き声は、鞍月1丁目や鞍月2丁目、藤江北4丁目で記録され、石川県庁舎に隣接する駐車場や「県民の杜」などで記録されているものが多い。

■クマゼミの観察記録

2006年8月7日	8:30	声	矢田 豊	2008年8月20日	声	矢田 豊
2006年8月10日	8:30	声(3カ所)	矢田 豊	2008年8月22日	声	矢田 豊
				2008年8月27日	声	矢田 豊
2007年8月6日	8:30	声	矢田 豊	2008年8月28日	声	矢田 豊
2007年8月13日	8:30	1♂採集	矢田 豊			
2007年8月24日	8:30	声	矢田 豊	2009年8月11日	8:30 声	矢田美絵
				2009年8月24日	8:30 声	矢田美絵
2008年7月29日		声	矢田 豊			
2008年7月30日		声	矢田 豊	2010年8月9日	8:30 声	矢田美絵
2008年8月7日		声	矢田 豊			
2008年8月12日		声	矢田 豊	2011年8月15日	8:30 声	矢田美絵
2008年8月13日		声	矢田 豊	2011年8月20日	声	矢田 豊
2008年8月18日		声	矢田 豊			

2012年8月6日	8:30	声	矢田美絵	2012年8月22日	8:30	声	矢田美絵
2012年8月10日	8:30	声	矢田美絵	2012年8月23日	8:30	声	矢田美絵
2012年8月14日	8:30	声	矢田美絵	2012年8月24日	8:30	声	矢田美絵
2012年8月15日	8:30	声	矢田美絵	2012年8月28日	8:30	声	矢田美絵
2012年8月20日	8:30	声	矢田美絵				

金沢市鞍月の石川県庁舎は、2002年11月に新庁舎が完成し、2003年8月には複数のクマゼミが鳴いていると、テレビなどで報道されている（富沢、2004）。富沢（2004）は、新庁舎周囲の植栽木は2002年に九州から根回しした状態で送られたものなので、幼虫が根に付いたまま運ばれ羽化したと思われる。としている。

クマゼミは、植物の地上部の枯れ枝に産卵し、卵はそのまま地上部で越冬する。卵は翌年の夏に孵化し、孵化した幼虫は直ぐに地面に降りて土に潜り、産卵から羽化に至るまでの幼生期間は、おおよそ8年（沼田・初宿、2007）とされている。樹木の植栽後4年目から10年目にかけて毎年鳴き声が記録されているのは、寒冷地における幼生期の延伸に止まらず、この地で産まれた卵が地上部での越冬に成功し、孵化した幼虫が齢を重ね羽化に至っていると十分に考えられる。

最後に、長期に渡って記録されているクマゼミの情報を提供していただいた矢田 豊・美絵夫妻に厚くお礼申し上げます。

《 参考文献 》

- 沼田英治・初宿成彦（2007）都会に住むセミたち．162pp.海遊舎.
 富沢 章（2004）石川県で相次いだクマゼミの記録．翔（168）：7.



2007年8月13日に採集されたクマゼミ(♂)

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

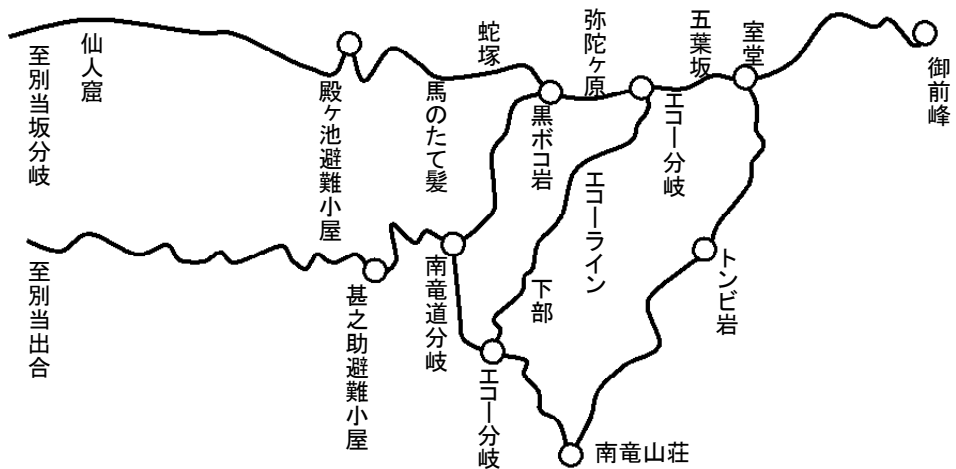
白山におけるエルタテハ、クジャクチョウの目撃記録

竹谷 宏 二

筆者は2012年、白山の高山帯（石川県白山市）において、石川県では観察記録の少ないエルタテハ、クジャクチョウを目撃したので報告する。

2012年7月31日	甚之助避難小屋前	エルタテハ	1頭		
2012年8月 1日	馬のたて髪	エルタテハ	6頭、	クジャクチョウ	5頭
2012年8月 2日	弥陀ヶ原	クジャクチョウ	1頭		
2012年8月 2日	馬のたて髪	エルタテハ	2頭、	クジャクチョウ	2頭
2012年8月 2日	殿ヶ池避難小屋前	クジャクチョウ	1頭		
2012年9月12日	五葉坂（室堂下）	クジャクチョウ	1頭		
2012年9月13日	エコーライン下部	クジャクチョウ	1頭		
2012年9月13日	南竜道分岐	エルタテハ	1頭		

なお、8月1日の「馬のたて髪」における目撃頭数は8:00～14:15の間に記録したものである。



《たけたに こうじ 〒924-0815 白山市三浦町44-2》

表紙のむし - ウラナミシジミ -

「中学生にもなって、まだタモふつとるんか。」と誰からも言われ、恥ずかしさに縮こまりながらも、好きでたまらずタモを振っていた。できるだけ人目に付かないようにしていたある時、畑に一回り大きなシジミチョウが飛んでいた。回りには畑仕事の人がいる。どうしようか迷ったあげくタモを振った。初めてウラナミシジミを採った瞬間だった。あのころの風あたりは相当強く、何人もの虫好きは小学生までで消えていった。

松井正人

能登島で見かけたチョウ

富 沢 章

筆者は2012年の夏期と秋期に、石川県七尾市能登島で水生昆虫や蛾類の採集を行った。この際に見かけた、あるいは採集したチョウ類を記録する。

セセリチョウ科

ダイミョウセセリ	2012年 7月 5日	七尾市能登島四村塚山	1 頭目撃
オオチャバネセセリ	2012年 7月 5日	七尾市能登島四村塚山	1 ♂ 1 ♀

アゲハチョウ科

カラスアゲハ	2012年 9月14日	七尾市能登島四村塚山	1 ♂
モンキアゲハ	2012年 9月14日	七尾市能登島向田町	2 頭目撃

シロチョウ科

キチョウ	2012年 7月 5日	七尾市能登島長崎町	1 頭目撃
キチョウ	2012年 9月14日	七尾市能登島向田町	1 ♀
モンシロチョウ	2012年 7月 5日	七尾市能登島長崎町	1 ♀

シジミチョウ科

ルリシジミ	2012年 9月14日	七尾市能登島向田町	1 ♂
ルリシジミ	2012年 9月14日	七尾市能登島島別所町	1 ♂
ベニシジミ	2012年 7月 5日	七尾市能登島島別所町	1 頭目撃
ウラナミアカシジミ	2012年 7月 5日	七尾市能登島四村塚山	1 ♂
オオミドリシジミ	2012年 7月 5日	七尾市能登島四村塚山	1 ♀

ウラギンシジミチョウ科

ウラギンシジミ	2012年 9月14日	七尾市能登島島別所町	1 ♀ 目撃 1 ♂
---------	-------------	------------	------------

マダラチョウ科

アサギマダラ	2012年 7月 5日	七尾市能登島四村塚山	1 頭目撃
--------	-------------	------------	-------

タテハチョウ科

イチモンジチョウ	2012年 7月 5日	七尾市能登島島別所町	1 ♂
コムスジ	2012年 9月14日	七尾市能登島島別所町	1 頭目撃
ミドリヒョウモン	2012年 7月 5日	七尾市能登島四村塚山	2 ♂ 1 ♀
ミドリヒョウモン	2012年 9月14日	七尾市能登島向田町	2 頭目撃
オオウラギンスジヒョウモン	2012年 7月 5日	七尾市能登島四村塚山	1 ♂
オオウラギンスジヒョウモン	2012年 9月14日	七尾市能登島四村塚山	1 ♂

ジャノメチョウ科

ヒメジャノメ	2012年 7月 5日	七尾市能登島向田町	1 ♂
ヒメジャノメ	2012年 9月14日	七尾市能登島長崎町	1 ♀
オオヒカゲ	2012年 9月14日	七尾市能登島向田町	2 ♀

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3-71》

アジア産アゲハ100種を採る

指 田 春 喜

日本産のアゲハは何種類いるかは蝶屋なら数えれば直ぐにわかるであろう。そのすべてを採集している方も多いであろうし、アゲハなのでそれ程難しいことではない。それでは、東南アジアにはどれほどのアゲハがいて、何種ぐらい自己採集できるのであるか？どのくらい前であったかは忘れてしまったし、その記事も見つからなかったが、以前「TSUISO」に「東南アジア産のアゲハ100種を採る」という、そんな内容の記事があったことを薄っすらと覚えている。今回、インドネシア・スマトラ、カリマンタンの蝶の軟化展翅と標本整理の合間にそのアゲハを数えてみたのでその結果を報告する。

なお、日本産および台湾産アゲハは和名を先に記し、他の地域のは会員の便宜もあり、参考までに日本名を学名の後ろに記した。また、先出種は、後続の国・地域において採集されていても載せてなく、亜種名には言及していない。

<日本産>

1. ギフチョウ *Luedorfia japonica* 26都府県で採集し、1300余頭の展翅標本を所有する。
2. ヒメギフチョウ *Luedorfia puziloi* 北海道産および東北産は採ったが、赤城がほしい。
3. ホソオチョウ *Sericinus montela* 今ではこんなものまで日本産に入れるのかなあ。
4. ウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* 振りに逃がしボロが少ないのがよろしい。
5. ヒメウスバシロチョウ *Parnassius stubbendorfi* 高地では、7月にも採集できる。
6. ウスバキチョウ *Parnassius evarsmanni* 1965年に国の天然記念物に指定されている。
7. ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous* 屋久島産雌雄を採っておいたのは良かった。
8. ベニモンアゲハ *Pachliopta aristolochiae* 日本産は沖縄県に行かないと採れない。
9. キアゲハ *Papilio machaon* いつもギフのついでに採集。夏型は韓国でも採った。
10. アゲハ *Papilio xuthus* 国内採集の記憶はほとんどないが、台湾産は普通種ではない。
11. シロオビアゲハ *Papilio polyres* 南西諸島に行くのが夢であった頃のあこがれ種。
12. オナガアゲハ *Papilio macilentus* なんとなく数が採りにくくなった種である。
13. クロアゲハ *Papilio prptenor* 国内外のどこでも♀はあまり採れないものである。
14. ナガサキアゲハ *Papilio memnon* 南西諸島の白い♀はどこのものも良いものである。
15. モンキアゲハ *Papilio helenus* 1970年までは北陸でも多くはなかったのではないか。
16. カラスアゲハ *Papilio bianor* 人気があるは理解できる。変異が大きく、奥が深い。
17. オキナワカラスアゲハ *Papilio okinawensis* 沖縄での採集時に意識になく1♂のみ。
18. ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii* 美麗種だが、あまり面白みがないですな。
19. ミカドアゲハ *Graphium doson* 本州と対馬の野外産春型を採ってみたいですね。
20. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* 東京都産は、小学生の時の採集品で標本現存。

<台湾産>

21. キシタアゲハ *Troides aeacus* 台湾で初めてネットに入れた時の興奮は、忘れない。
22. アケボノアゲハ *Atrophaneura horishana* 初めての台湾で231頭の採集は嬉しかった。
23. オオベニモンアゲハ *Byasa polyeuctes* ベニモンアゲハとは、それ程近縁ではない。
24. タイワンジャコウアゲハ *Byasa febanus* これも何故か1♂のみしか採れてない。
25. オナシアゲハ *Papilio demoleus* 柑橘類の害虫である由、変異もなく人気もないね。
26. オナシモンキアゲハ *Papilio castor* 普通種だが台湾のどこにでもいる蝶ではない。
27. タイワンモンキアゲハ *Papilio nephelus* 台湾ではやはり♀は採れなかった。
28. ワタナベアゲハ *Papilio rhetenor* ♀はなかなか得にくいもののひとつである。
29. フトオアゲハ *Agehana maraho* 採集談は「月刊むし」(1989、218、26)に詳しい。
30. タイワンカラスアゲハ *Papilio dialis* 東南アジアの短尾型はかなりの珍品である。
31. ホッポアゲハ *Papilio hoppo* 台湾特産種である。♀は美麗であり、人気は高い。
32. ルリモンアゲハ *Papilio paris* 他地域に比べ、台湾産は何と地味であるか。
33. タイワンタイマイ *Graphium cloanthus* 台湾以外では、かなりの高地性である。

<東南アジア産>

34. *Trogonoptera brookiana* アカエトリバナアゲハ キヤメロン以外では得易くはない。
35. *Troides cuneifera* クネイフェラ(クサビモン) キシタアゲハ1♀(完品)のみの採集。
36. *Troides helena cerberus* ヘレナキシタアゲハ マレー半島では、キシタの最普通種。
37. *Troides amphrysus* アンフリサスキシタアゲハ カリマンタンで♀も採集できた。
38. *Atrophaneura sycorax* オオハゲタカアゲハ マレー半島で1♀(完品)のみの採集。
39. *Atrophaneura varuna* 大陸種であり、次種とは違い島(インドネシア)には分布せず。
40. *Atrophaneura nox* どこでも多い種ではない。カリマンタンでは雌雄ともやや採れた。
41. *Atrophaneura zaleucus* 1ペアを所有するが、大型の♀の白紋は魅力的である。
42. *Atrophaneura aidoneus* 後翅後角内縁袋状を開くと白紋が現れる。
43. *Losalia coon* 平地に棲息し、森がなくなる今採りにくい。ランカウイ島でかなり採集。
44. *Losalia neptunus* ランカウイ島では前種と混飛していたが、本種がはるかに少ない。
45. *Byasa laos* ラオスジャコウアゲハ 再発見されて間もない頃の採集品、少なくない。
46. *Chilasa clytia* キラサの中の最普通種なれど、地域・季節変異が大きく面白いかも。
47. *Chilasa agestor* カバシタアゲハ ネットに入れるまで、何だかわからなかった。
48. *Chilasa slateri* 採ろうと思っても、そう簡単には採りにくいのでないか。
49. *Chilasa paradoxa* キラサの中では圧倒的に人気があり、♀はどこでも得難い。
50. *Papilio mahadeva* マレー半島ではとんでもない珍品なれど、ラオスでは採れる。
51. *Papilio polyctor* クジャクアゲハ 春型の♀はなかなか上品であり、好いものである。

52. *Papilio arcturus* オオクジャクアゲハ 春季ラオスの山岳地帯での採集品。
53. *Papilio iswara* イスワラモンキアゲハ ♀は後翅破損ながら、立派な大きい個体。
54. *Papilio palinurus* 飛翔は極めて速く光りモノなので、ネットに入れた満足感はある。
55. *Papilio pitmani* ラオスで採集したときは、迂闊にもシロオビアゲハだと思っていた。
57. *Papilio demolion* 飛翔が速くて採りにくいが、どこでも“ど普通種”であろう。
58. *Papilio noblei* 上記の近縁種ながらこちらはかなり少なく、山地性小型モンキカ。
59. *Papilio forbesi* スマトラ山地の特産種であり、ナガサキの代置種。♀は大珍品。
60. *Graphium phidias* かつての世界5大珍アゲハのひとつも産地がわかれば我が家にも。
61. *Graphium agamemnon* コモンタイマイ 最近、南西諸島（日本）でも採れたらしい。
62. *Graphium arycles* 以下のグラヒュウムは、名前と蝶が一致せず、直ぐに忘れてしまう。
63. *Graphium agetes* 飛翔は素早く、長い尾状突起は切れやすい。
64. *Graphium antiphates* 多くの♂と大型の1♀を所有する。
65. *Graphium aristeus* 発生時期とその場所に遭遇すれば多数が得られる。
66. *Graphium nomiusi* 採集時に上記種と区別できず、生態の記憶が薄いのは今後の問題。
67. *Graphium megarus* 英名Zebraが示すようにシマウマ模様と色彩であり、吸水性が強い。
68. *Graphium xenocles* 上記種と似るが、青みを帯びる。野外での生態の詳細は記憶薄。
69. *Graphium bathycles* ミカドアゲハ近縁数種だが、斑紋の違いで野外での同定もできる。
70. *Graphium eurypylus* ミカドアゲハ近縁数種の野外での同定は困難。吸水時の裏面でも。
71. *Graphium evemon* こちらも上に同じで、区別して採集してなく、今後の課題ですな。
72. *Graphium delesserti* 何故か採れたのは、マレー半島南端のジョホールでの1頭のみ。
73. *Graphium ramaceus* こちらも何故か採れたのは、マレー半島中央部での1頭のみ。
74. *Graphium macareus* マレーシア産はランカウィ島産のみ。ラオス産は黒化小型化する。
75. *Meandrusa payeni* カギバアゲハ どこでもそう簡単には採れない。♀は見たことない。
76. *Meandrusa sciron* クロカギバアゲハ 上記よりさらに採りにくい。ラオス北部山地産。
77. *Lamproptera curius* シロスソビキアゲハ 初めて野外で見た時には蝶だとは思えず。
78. *Lamproptera meges* スソビキアゲハ 飛翔中は前種と区別できず。♀はまず採れない。
79. *Teinopalpus imperialis* テングアゲハ 下記と同時に10数頭を採集した。凄いだろ！
80. *Teinopalpus aureus* オウゴンテングアゲハ 詳細は、「昆虫と自然」(2000、35-7、29)。

<番外>

自己採集品ではないが、以下の標本がある。

81. *Luehdorfia chinensis* シナギフチョウ いずれは自己採集と思うが、いつになるかな。
82. *Luehdorfia longicaudata* オナガギフチョウ こちらはちよいと難しいかな？
83. *Parnassius charltonius* カルトニウスウスバ ヒマラヤ・インド産、大型パルである。
84. *Parnassius nomion* オオアカボシウスバ 中国青海省産などがあるが、かなりの大型。

85. *Parnassius cephalus* 中国甘肅省産。パル海外の採集経験はないが、一度はしてみたい。
86. *Parnassius olreans* 1頭のみで、中国四川省 Mt. chetoushan、1982、Julyの採集品、小型種。
87. *Troides oblongomaculatus* パプアキシタアゲハの名で知られ、Irian Jaya 産である。
88. *Ornithoptera croesus* アカメガネトリバネアゲハが分かりやすいか。Halmahera産。
89. *Ornithoptera priams* これはミドリメガネトリバネとなるか。どちらもニューギニア産。
90. *Ornithoptera rothschildi* Irian Jayaの高地性のトリバネも今や普通種(?)となったね。
91. *Ornithoptera goliath* Irian Jaya およびCeram 産の最大亜種の雌雄がある。
92. *Ornithoptera tithonus* チトヌストリバネアゲハ これもIrian Jaya の山地にいるのか。
93. *Ornithoptera paradisea* ゴクラクトリバネアゲハ これもIrian Jaya の山地産である。
94. *Papilio ulysses* オオルリアゲハ SolomonおよびCeram 産の2産地産が手元にある。
95. *Graphium hicetaon* Solomon産である。グラヒュウムのオバケである。修理品。
96. アサクラアゲハ *Graphium eurous* 台湾春の蝶であり、モクセイアゲハと極似する。

<結論>

自己採集種が80であり、基本的には蝶は購入してないので、16種ほどしか上乘せできず、全部で96種の所有であった。買わないのに何故、トリバネアゲハ *Ornithoptera* などがあ
るのかは、当の本人も記憶がはっきりしない。しかし、今後20種をこれから自分で採集す
るのは、容易ではない。「TSUISO」にそんな記事が載るくらいである。やはり簡単にはク
リアできないことを実感しただけで終わった。せめて、あと4種を自分で採集し、近いう
ちに偽100種を達成したく思っているところである。東南アジアのアゲハの時期は主とし
て春季であるので、在職中のこの時期の決行は難しい。退職直後の達成を楽しみに残して
おくことにする、以上。

<おまけ>

当方、蝶の中でアゲハが特に好きという訳ではなく、標本箱にあまり入らないので、ど
ちらかというとは好きではない。しかも標本箱の残り収納可能数(一応、30としております)
を考えると、“場所を食う”アゲハをこれからあまり採集できず、どこまでその数(自己
採集数)を伸ばせるかは難しいところである。

インド、中国、中央アジアでのバルナシウス採集、イリアン・ジャヤ、パプア・ニュー
ギニアでのトリバネアゲハ、インド北東部でのエレフェノール(オナシカラスアゲハ)の
うち、どれかひとつでもできたなら表題達成に華を添えることができるのであるが、さて
どうなるであろうか。

《さしだ はるき 〒920-0931 金沢市兼六元町11-27》

会員の動き・しゃばの動き

■倉ヶ岳でエダナナフシ

ナナフシ大家の浅地氏、いろんな場所でスウィーピングやたたき網により、ナナフシを採集している。今年はエダナナの当たり年のようで、9月23日には倉ヶ岳でも見つかった。

■ガレージに飛び込んだアサギマダラ

9月28日、ガレージにアサギが飛び込み、「F U J I」のマークが有ると珠洲から連絡が入った。捕まえたのはアサギマダラ調査隊の中野さんで、問い合わせの結果、山梨県鳴沢村富士林道で8月10日に放蝶されたと分かった。富士山から北上し、その後南下して珠洲で見つかったものと思われる。

■白山市瀬戸周辺のアサギマダラ園

10月8日、良い天気誘われて中村氏ご自慢のアサギ園へ。フジバカマが咲き乱れる白嶺小、少年自然の家、ミントレイノ、かんぽの郷と回ると、白嶺小にはアサギが舞い、ミントレイノにはネットが用意され、ハーブティーを飲みながら、おしゃれにマーキングできるようになっていた。

■長寿のトゲナナフシ

最も生き長らえたこれまでの記録は、9月10日だったが、今年は更に延びた。昨年5月の孵化から飼育を始めた2♀のトゲナナは、10月6日まで元気に産卵していたが、10月16日に2♀そろって旅立った。

■素敵な名前とかわいそうな名前

ミカドアゲハやクジャクチョウなど、聞いただけでも気品に満ちた虫が想像され、クソとかゴミとか付いたムシはかわいそう

と思っていたら、植物にも、ヘクソカズラとかヨグソミネバリなんてのがあった。

■鳴く虫の調査

I Cレコーダーをいくつも使って広い範囲で一定期間録音し、その中から鳴き声を探し出すソフトを使って、アカエゾゼミを調べようとしていたら、野鳥の会が北海道のシマフクロウ調査で利用していた。

■クラッシュの原因

B5ノートのハードディスクを2度交換している。いずれも、「重大が問題が発生しましたが回復に成功しました。」なんてメッセージが出てしばらくして、起動しなくなった。至って丁寧扱っていたが、真夏の採集行に持ち出した後に症状が出たので、車内放置による高温で壊れたらしい。

■遅いムラサキツバメ

3年ぶりに見つかったムラサキツバメ、今年は、暑さが異常に長引いたためか、10月下旬になっても終齢幼虫が見つかった。この先、気温はグングン下がり、蛹化、羽化が危ぶまれたため、採集することにした。

■佐渡発のアサギマダラの行方

8月に佐渡初の大量マーキングが大脇特派員指導で行われた。マークされた366頭のアサギは、宝達山を皮切りに、滋賀県、和歌山県、愛知県と再捕獲され、初回から大きな成果が上がった。

■アサギマダラの再観察率が上昇

アサギマダラのマーキング調査は、アサギの魅力も手伝って年々盛んになり、再観察される率も高くなってきた。10年前は300頭に1頭

の割合だったが、今年は40~50頭に1頭になっている。ところが、これは秋の南下時期の話で、初夏の北上時期は、ほとんど見つかっていない。

■スジアカクマゼミの越冬戦略

スジアカは、何故か細い生枝に産卵する。産卵枝は枯れてもろくなり、折れて地表に落ちる。雪が積もれば、寒風吹きすさぶ樹上より地表の方がずっと温かい。

■会誌の納本

これまで、国、金沢市、金沢大学の図書館に会誌を納本していたが、石川県立図書館からも依頼があり、在庫があるバックナンバーを総て寄贈し、今後は継続して納本することになった。

■ニホンジカ生息の善し悪し

これまで石川県に生息していなかったニホンジカが、ここ数年で分布を広げ医王山でも大きな角の雄が目撃されている。シカの拡大とともにダイコクやゴホンダイコクなどが広がるかもしれないが、ヤマビルも広がるだろうし、林床の食害がすさまじく

なり、今までいた動植物が消えてしまう。

■ 例 会 の 記 録 ■

10月11日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、海外撮影行が続く松田氏が、再び訪れたランカウイで撮影した蝶トンボなどを紹介。これまでは、プロジェクターとスクリーンを使っていたが、新型パソコンにはHDMI端子が有り、デジタルテレビに直接繋いで大型画面で楽しんだ。

その他の話題は、千里浜でムラサキツバメが発生、宝達山で見つかった佐渡のアサギマダラ、低地で観察される可能性が高いエルとクジャク、今年はエゾゼミの音がほとんどしない、2ヶ月で孵化したナナフシモドキ、アカアシクワガタの完全雌雄型、マルバダケブキの葉裏からタニグチコブ、シカが増えるとヤマビルが増える、などなど。

参加は、細沼、松田、松井、浅地、浅野、吉村の6人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

日吉宏朗・濱村 翼：ツマグロヒョウモンの飼育体験	1
松井正人：石川県庁舎周辺に於けるクマゼミ発生の可能性	3
竹谷宏二：白山におけるエルタテハ、クジャクチョウの目撃記録	5
富沢 章：能登島で見かけたチョウ	6
指田春喜：アジア産アゲハ100種を採る	7
編集部：会員の動き・しゃばの動き	11

翔 219号

Tobu 2012年12月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

